

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K14025

研究課題名（和文）外国人若手研究者の職能開発を取り巻く環境・個人要因の解明と体系化

研究課題名（英文）Factors affecting career development of early-career foreign researchers

研究代表者

櫻井 勇介（SAKURAI, Yusuke）

広島大学・教育学習支援センター・准教授

研究者番号：60771219

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：外国人若手研究者の職能開発に資する環境、個人要因を探索、体系化した。質問紙調査結果から、個別のケースを考慮しながら、職能開発経験の特徴の複数のパターンを明らかにした。本研究課題を通して、日本の大学で働く外国人若手研究者の同僚とのやり取りが、彼らのウェルビーイングや機関所属意識、能力開発に大きく影響することを示した。研究進捗を国内外の学会で共有するなかで、これらモデルや理論化について意見交換を行った。申請した金額通りの研究費が支給されなかったため、全論文のオープンアクセスの提供に至らなかったが、論文プレプリントや学会スライドをオンラインレポジトリで広く公開してきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国人研究者が増加する中、彼らの能力開発経験に関する研究は不足している。本研究では、彼らの知識・知的発展の感覚を説明する要因を探索し、同僚との関係性ややり取りがその開発に重要な役割を果たしていることを示した。また、外国人研究者のウェルビーイングに関する研究では、ストレスが高く、帰属意識や仕事をコントロールできる感覚が中程度のグループが最も多いことがわかった。契約形態（テニユアの有無）がウェルビーイングと関連していたが、背景属性（性別・分野・日本語運用力）は関連していなかった。本研究を通して、グローバル化が進む日本の高等教育機関において、外国人研究者を支援するための貴重な洞察を提供できた。

研究成果の概要（英文）：Through the analysis of questionnaire survey and interview data, this study elucidated multiple person-oriented patterns characterising foreign early career researchers' career development experiences, considering individual unique cases. The study also demonstrated that foreign' early career researchers' interactions with colleagues significantly influence their well-being, sense of organisational belonging, and professional development at Japanese universities. By disseminating research progress and findings at domestic and international conferences, the study facilitated discussions on these models and theoretical contributions of study findings. Although the allocated research funds fell short of the requested amount, precluding open access publication of all the papers, preprints and conference slides were widely disseminated via online repositories.

研究分野：高等教育、国際教育

キーワード：外国人研究者 国際化 職能開発 若手研究者 高等教育機関 混合研究法

1. 研究開始当初の背景

【 外国人若手研究者の職能開発研究の動向 】

近年、大学の国際化が加速している。大学は多様な背景を持つ研究者陣を揃え、とりわけ外国にルーツを持つ外国人若手研究者が増加している。彼らは学生の国際性の涵養や研究活動の国際化に貢献しているが、不慣れな環境で勤務する葛藤も明らかにされている。一方、研究者の職務で期待される能力である職能の枠組みが英国の非営利組織 VITAE により開発され、日本でも啓発活動が盛んである。しかし、増加する外国人若手研究者が不慣れな環境でこれらの職能をどう向上させるべく研鑽を積んでいるのか、彼らの着実な職能開発を導く、大学を含めた学術環境や仕掛けの構築のための方策は明らかではない。

若手研究者が不安定な雇用環境においてキャリア開発を求められている現象は世界の至るところで生じている。日本も若手研究者の能力開発にかかわる諸課題については 1980 年頃から問題提起がなされてきたが、なかでも外国人研究者の雇用や役割への関心は、近年の科研費による大規模研究を一例に高まっている。これらの研究では若手外国人研究者の役割が周辺化、つまり、活躍の機会へのアクセスが制限されていると示唆されている。応募者のこれまでにに行った研究でも、博士課程留学生在が将来のキャリアを描きづらいという苦悩が明らかになっている。

【 本研究の位置づけ 】

これまでの研究では、外国人若手研究者が効果的に職能を向上させているのかまだ明らかにされてきておらず、その経験の解明、課題の把握には至っていない。従って、彼らの職能開発とその関連要因のメカニズムを明確化することは、日本の学術活動を魅力的にし、発展させる糸口をつかむための最重要課題の一つである。本研究は、日本の学術界と科学技術の発展に資する観点からも喫緊の課題である。

本研究成果は、以下の点で若手研究者に関する研究と支援実践に向けて国内外に発信してきた。

- 国際化を推進する日本において重要な構成員である外国人若手研究者の専門性開発の現状を明確化し、大学を含む研究機関の喫緊の課題である職能開発の支援体制整備に貢献する。
- 外国人若手研究者が日本の学術界で様々な葛藤を経験しながらも、自身の職能をどのような環境要因と個人要因の中で開発しているのか、そのメカニズムを提示できる。
- 外国人若手研究者の職能開発を体系的に検証した研究は世界的にも少なく、質的・量的手法を併用する混合研究法によって検証したものは皆無である。

2. 研究の目的

本課題の遂行を通して、外国人若手研究者の職能開発状況を把握し、そして、それを支援、または妨げる環境・個人要因を質問紙と聞き取り調査を通して明らかにした。そして、関与する要因の概念化と外国人若手研究者が専門性を涵養できる学術環境と支援体制の構築のための提案を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

令和 2 年度にデータを収集し、令和 3 年度には主な調査項目に取り組んだ。本課題期間内にこれらを統合し、成果の社会還元を通して目的達成とした。

【 令和 2 年度 】

研究対象者・実施場所 次の方法で文理系を問わず 300 名程度の協力者から質問紙調査へ、さらに、40 名程度から聞き取り調査への協力を得ることができた。

- 1) 「J-Global 研究者データベース」のメッセージ機能で協力を打診。
- 2) 大学ホームページ掲載の連絡先情報を使用し、郵送、またはメールで依頼した。
協力者は「外国籍」であり、「博士号取得後 8 年未満」または「40 歳未満」(科学研究費助成事業の「若手研究」の基準)の者とする(「博士研究員」を含む)。

質問紙調査 VITAE の「研究者職能開発枠組み」の職能の 4 側面「知識と知的能力」「個人資質」「研究活動の管理運営」「貢献とインパクト」の項目リストを利用し、日本の研究機関で勤務してこれらの能力がどの程度、向上、減退したか量的に自己評価してもらった。記述的統計分析で全体の傾向を把握し、個人的に特異なケースも特定した。同時に、自身の職能開発経験における重要な出来事を自由記述で収集し、コード付けし、量的分析同様に傾向と特異なケースを特定した。この際、聞き取り調査への協力も打診し、必要な個人情報も収集した。

聞き取り調査 聞き取り調査は協力者の希望に沿い Zoom を通して行った(音声のみ可)。これにより対面の場合の地理的制限を緩和することができた。また、研究者キャリア開発の経験はプライベート場面の要素も複雑に絡み合っていることを考え、ビデオ通話

の方法を利用することで、個人を完全には明かすことなく重要な語りを収集することができた。

以下の大きく二つの項目について半構造化インタビューを行った。

- 現在のキャリアに至るまでの道のり、キャリア選択のきっかけ、将来の見通しなどについて、自分の職業人生を語るのに必要だと思う時から語ってもらった。
- 現在と将来のキャリアパスを念頭に、日本の研究機関での職能開発経験、その機会の獲得、逸失経験を自身の職務や個人的状況を踏まえて語ってもらった。その際、上述のVITAEの「研究者職能開発枠組み」を意識して聞いた。

この枠組みに納まらない語りにも注目した。必要に応じて日本の研究機関着任前の重要な経験も参照した。聞き取りの音声データから逐語録を作成した。

【 令和3年度 】

令和2年度に十分なデータが得られ次第分析に着手する予定だったが、コロナウィルスの蔓延により、データ収集を半年遅らせる必要があり、令和3年度にもデータ収集を継続した。質問紙調査へ300名程度、聞き取り調査へ44名の協力者が得られた時点で十分な情報が収集できたと考え、データ収集を終了した。

質問紙調査回答の分析 質問紙調査への回答データを踏まえ、外国人研究者の職務経験のパターンを解明するため、クラスター分析、構造方程式モデリングの手法を用い分析した。

聞き取り調査から職能開発経験の分析 逐語録をもとにVITAEの枠組みの4側面を参照し、逐語録中の職能開発経験にコードを付した。

職能開発に関与する要素の分析 逐語録から協力者の職能開発に関与する環境要因と個人要因を探索、抽出し、コード付けを行った。

職能開発経験と環境の概念化 質問紙調査回答と聞き取り調査回答の結果を統合した(混合法)。外国人若手研究者の職能開発を促進・阻害する環境と個人要因をクロス集計することで、職能開発経験の傾向を把握し、その事例を同定した。その際に、環境と個人要因(例：母語・性別・専門分野等)の関連パターンにも注目した。

さらに、本年度には博士課程留学生からの聞き取りの機会や、日本の大学に勤務する外国人研究者との交流の機会があり、この中で得られた具体的な示唆を踏まえて、論文を執筆することもできた。

【 令和4-5年度 】

コロナ禍による本課題の全体的な遅れにより、質問紙データ、聞き取り調査データの分析を継続した。

国内外の関係者への成果公開 研究の進捗や構築モデルを学会にて適宜共有し、異なる大学や分野での応用可能性の視点から批評を受け、信頼性、汎用性の高いモデルを目指した。その他の関係者に向けて、論文のプレプリントや学会スライドを本学のリポジトリや応募者のウェブサイトにて共有した。また、研究成果を分かりやすくまとめたアウトリーチ記事を執筆し、その成果をより広く社会に還元した。論文のオープンアクセスへの申請も検討したが、申請した研究費が満額で支給されなかったため、断念することとした。

多様な人材が活躍する大学モデルのセミナーの実施 得られた知見を踏まえ、本学高等教育研究開発センターにて公開セミナーを開催した。

4. 研究成果

本課題で得られた主な成果は以下のとおりである。

- 外国人若手研究者の知識的発展には、同僚との交流が鍵となる。外国人の経験を共有することで、日本の研究機関の現状に蔓延する問題への意識を高めることができる。
- 同僚とのつながりは、外国人研究者の帰属意識、定着意欲、ストレス軽減に寄与する。一方で、業務量をコントロールできるかもストレス軽減に影響することが示唆された。しかし、研究教育の支援体制は必ずしも所属機関への定着意欲に結びついていなかった。
- 外国人研究者のウェルビーイングの多様性を明らかにし、ストレスが高く帰属意識が低い層と、その逆のグループが存在することを示した。ウェルビーイングは個人属性(性別や分野など)よりも雇用形態(テニュアトラック雇用かどうか)と関連が深いことが示唆された。
- 博士課程留学生にとって、日本の学習環境には馴染みにくい側面がある。インフォーマルな出会いを通じた学習機会が、彼らの発展を補完する役割を果たしていた。

本研究課題を通して、外国人研究者の包摂と発展に向けた具体的な示唆を提供することができた。日本の高等教育のグローバル化を目指す中で、外国人研究者の能力開発を支援するための洞察を提供できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Sakurai Yusuke, Mason Shannon	4. 巻 -
2. 論文標題 Foreign early career academics' well-being profiles at workplaces in Japan: a person-oriented approach	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Higher Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/S10734-022-00978-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Sakurai Yusuke, Mason Shannon	4. 巻 -
2. 論文標題 Work environment factors affecting foreign early career researchers' intention to stay, sense of belonging, and stress	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/02188791.2023.2198159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sakurai Yusuke, Shimauchi Sae, Shimmi Yukiko, Amaki Yuki, Hanada Shingo, Elliot Dely Lazarte	4. 巻 N/A
2. 論文標題 Competing meanings of international experiences for early-career researchers: a collaborative autoethnographic approach	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Higher Education Research & Development	6. 最初と最後の頁 1~15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/07294360.2021.2014410	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Mason Shannon, Sakurai Yusuke	4. 巻 N/A
2. 論文標題 Moving in and Coming Home: Insights from Two Early Career Researchers in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Academic Mobility and International Academics	6. 最初と最後の頁 129~145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/978-1-80117-510-420221013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakurai Yusuke, Mason Shannon	4. 巻 -
2. 論文標題 Work environment factors affecting foreign early-career researchers' intention to stay, sense of belonging, and stress	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Education	6. 最初と最後の頁 1~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/02188791.2023.2198159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakurai Yusuke, Saruta Shizuki, Cheng Wenjuan	4. 巻 78
2. 論文標題 Mixed methods study on foreign early career academics' sense of knowledge and intellectual development	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Higher Education Quarterly	6. 最初と最後の頁 135~152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hequ.12453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakurai Yusuke, Han Jiawen, Zhang Xun	4. 巻 -
2. 論文標題 Mapping the Learning Opportunities of the Hidden Curriculum for International Doctoral Scholars in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Developing Researcher Independence Through the Hidden Curriculum	6. 最初と最後の頁 31~40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-42875-3_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yonezawa Akiyoshi, Kitamura Yuto, Ogisu Takayo, Sakurai Yusuke, Shimauchi Sae, Jung Jisun, Liu Jing, Takayama Keita, Breaden Jeremy	4. 巻 17
2. 論文標題 Creating Educational Research as International Knowledge: Fostering early-career educational researchers through international networking	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 131~135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7571/esjkyoiku.17.131	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shannon Mason、Liesel Frick、Montserrat Castello、Wenjuan Cheng、Sin Wang Chong、Laura Diaz Villalba、Marina Garcia-Morante、Ming Sum Kong、Yusuke Sakurai、Nazila Shojaeian、Rachel Spronken-Smith、Crista Weise	4. 巻 -
2. 論文標題 Prominence, Promotion and Positioning of the 'Thesis by Publication' in Six Countries	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Higher Education Policy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1057/s41307-024-00350-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Yusuke Sakurai; Sae Shimauchi
2. 発表標題 Competing meanings of international experiences for early-career educational researchers
3. 学会等名 日本教育学会 第82回大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 櫻井勇介
2. 発表標題 みんなで考えよう - 異文化間教育研究のグローバル展開 -
3. 学会等名 第32回異文化間教育学会研修会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sakurai, Yusuke
2. 発表標題 Double edged sword of international mobility experiences for early career researchers
3. 学会等名 12th Biennial Comparative Education Society of Asia (CESA) Conference, (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sakurai, Yusuke
2. 発表標題 Competing meanings of international experiences for researchers: Collaborative autoethnography
3. 学会等名 The 19th Biennial European Association for Research on Learning and Instruction (EARLI) Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yusuke SAKURAI, Wenjuan CHENG, Shizuki SARUTA
2. 発表標題 Factors affecting foreign early career academics' sense of knowledge and intellectual development: Mixed-methods study
3. 学会等名 Comparative Education Society of Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yusuke Sakurai & Shannon Mason
2. 発表標題 Foreign early career academics' well-being profiles at workplaces: A person-oriented approach
3. 学会等名 European Association for Research on Learning and Instruction (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yusuke SAKURAI, Shizuki SARUTA & Wenjuan CHENG
2. 発表標題 Mixed methods study on foreign early career academics' sense of knowledge and intellectual development
3. 学会等名 Higher Education Research Association (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yusuke, Sakurai, Jiawen Han, and Xun Zhang,
2. 発表標題 Mapping the Learning Opportunities of the Hidden Curriculum for International Doctoral Scholars in Japan
3. 学会等名 Academic Profession in the Knowledge-Based Society (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【プレプリント】 Foreign early career academics' well-being profiles at workplaces in Japan: a person-oriented approach https://doi.org/10.35542/osf.io/dzqf5</p> <p>【プレプリント】 Work environment factors affecting foreign early-career researchers' intention to stay, sense of belonging, and stress https://doi.org/10.35542/osf.io/9hxyq</p> <p>【プレプリント】 Mixed-methods study of foreign early career academics' sense of knowledge and intellectual development https://doi.org/10.35542/osf.io/6yfn4</p> <p>日本の研究機関に勤める外国人若手研究者の経験と意識調査 https://osf.io/usjrf/</p> <p>【アウトリーチ】 他者とのつながりが外国人研究者の知識・知的能力開発の実感を最も高める要因に https://researchmap.jp/press_releases/press_releases/view/633014/4c58fcfe6ecdd63b007967b42b4e9025?frame_id=1601185</p> <p>【アウトリーチ】 日本の外国人研究者の所属意識、就業継続とストレスに影響する要因とは？ https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/76238</p> <p>広島大学高等教育研究開発センター第12回「日本の大学の若手研究者：経験と課題を中心に」 https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/video_and_materials/</p> <p>公開研究会『理系研究室コミュニティにおける学生の能力開発とアイデンティティ』のご案内 https://researchmap.jp/press_releases/press_releases/view/633014/42dbaeb18f38b8027c29be7d3c2b9a49?frame_id=1601185</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国	University of Glasgow	University of St Andrews	University of East London,	
中国	Tianjin University of Technology	Sichuan International Studies University		
南アフリカ	Stellenbosch University			
スペイン	University Ramon Llull	University of Barcelona	Autonomous University of Barcelona	
ニュージーランド	University of Otago			